

## ネムノキ

梅雨空のもと、ネムノキの花が咲きました。これが本来の咲き方なのでしょうが、今年はとても豪華に見えます。と言うのも、昨年、一昨年とも、貧相な咲き方だったからです。二年続けて、咲き始めたと思ったら日照りがつづき、開花期間に中休みができてしまったのです。



ネムノキの名前の由来は、夜になると葉が閉じて垂れ下がり、眠ったように見えるからと言うことですが、別名のコウカノキのほうはご存じですか。こちらは中国名の合歡木(ごうかんぼく)から。手元の辞書で合歡を引くと、「歡樂を共にすること。ことに男女が供寝(ともね)すること」とありました。実になまめかしい名前だったのですね。やはり夜に葉が閉じることからの命名でしょうが、花の姿のなまめかしさも関わっているような気がします。

ところで、ネムノキの花の、ピンクの房のように見える部分が雄しべだと言うことは以前から知っていたのですが、念のために図鑑で確認していたら、花卉は数ミリと書いてあります。花卉は無いものと思いこんでいたので、ちょっと驚いてしまいました。改めて実物の花を観察してみましたが、筒状の萼の先が三角形に分かれて広がっているだけのように見えます。あれが花卉なのかなと、今でも半信半疑の状態です。